



広安里 第4号

発行 釜山日本人学校
釜山広域市水営区民樂路 19 番道 11
TEL 051-753-4166
FAX 051-756-4851
<http://user.chollian.net/~pusjpnsc>

ご安全に！

釜山日本人学校運営委員 久米 英生



これから楽しい夏休みですが、皆さんはどのような計画を立てられていますか？日本に帰国したり、家族で旅行に行ったり、友達とキャンプに行ったりと充実した計画を立てていることでしょう。

皆さんが事故、怪我のない楽しい夏休みを過ごすために、釜山日本人学校、韓国生活を充実したものにするために、今回は少し真面目に、小学生の皆さんには少し難しいかもしれませんが、一番大切な「安全」について話をしようと思います。

皆さん一人一人が自分の身の「安全」、そして仲間の身の「安全」を常に意識し、学校や日常生活にあたるのが非常に大事なことです。



「ヒヤリ・ハット」という言葉を知っていますか？

ヒヤリ・ハットとは、「重大な災害や事故には至らなかったものの、直結してもおかしくない、一步手前の事例＝ヒヤリとした、ハットした事例のこと」です（参考：Wikipedia）。

このヒヤリ・ハットと関連する重要な法則があります。1件の重大な事故、災害の裏には、29件の軽微な事故、災害があり、さらに300件のヒヤリ・ハットがあるとされる「ハインリッヒの法則」です。

皆さんも日常生活の中で自分が、もしくは周りの仲間の身にヒヤリ・ハットした経験、危ないなと思ったことはありますよね？例えば、交通事故の可能性でいうと、信号無視する車、歩道でのバイク、交通ルールの日本との違い。日常生活でいうと、路面のタイルが凸凹であったり、床が抜けていたり、手すりが壊れていたり、また学校生活でも、廊下が濡れていたり、遊具が壊れかかっていたりと、ちょっとした身近なヒヤリ・ハットに気付くことがあると思います。

ではその時、どうすればいいのでしょうか？

答えは、それをそのままにせず、お父さんやお母さん、学校の先生などに相談し、報告することが大切です。皆さんが少し意識することで、大ごとにならずに済みます。

相談、報告のポイントは、以下の通りです。

1. これは危ないなと思った出来事
2. なぜ危ないと思ったか（理由）
3. このようなことが起こらないようにする工夫（手順や動作など、行動できることでの提案）



これから楽しい夏休み、「安全」にくれぐれも気を付けて、思う存分楽しんで下さい。



可愛い子には旅！旅！旅！

教諭 蓑田 竜史

なぜ「旅」なのか。好きだから。面白いから。それに尽きる。高校世界史で、違う文化や考えを知るのが楽しかった。資料集にあったイスタンブールのブルーモスクが楽しかった。旅番組に興味をもった。大学生で近くて手軽な台湾、フィリピンからスタート。真の「自由」を感じ、詐欺に遭いまくりながらの経験が財産に。お金を使わず、苦労だけは厭わず、如何に異環境で異経験をするかを追求。異文化にはまる。人生観が変わった。度胸がつき、思考の切り替え、大らかさ、自信、楽観主義が身に付いた（と思い込む）。いろんな変人との出逢い。影響を受ける。トラブル（ベ）ルは全てネタに。旅での経験が教職を志させる。広がった興味は、語学・写真・スポーツ観戦・食べもの・アート・建築・音楽・自然 etc…と広がり、学問が楽しくなった。とにかく人生が前向きになり、明るくなった。

現代の旅のスタイルは既に大きく変化した。超情報化。リアルタイムの現地情報。日本語の世界一周ブログも2000以上。スマホ片手が当たり前。現地でLCC予約も可。だが、アナログだからこそ面白いこともある。ナポリで迷い高速道路に侵入し地元の子たちに救助されるとか、グランドキャニオンで安い宿が見つからず「ロビー」で野宿するとかいう経験こそアナログのみで可能だ。旅予習はお勧めだが、しないなりのメリットもある。翻訳機なんてないほうが真の意味疎通が楽しめる。声かけ、人との関わりが積極的になる。PC持ち歩き、現地からの情報発信も思い出整理にはよいが、エネルギーと時間の配分次第。要はバランスだ。求めるスタイルに合わせツールを存分に活用すればいい。

お勧めは一人旅。無計画でもOK。責任を回避する傾向のある現代、一人旅は全て自分で即決断・行動・対処・予防でありこれ以上の教科書はない。乗り放題チケットを手に寝床は列車やバス、観光は昼間、節約しながら究極のルートでの工夫が「生きる力」だ。限界を試す。沈没（滞在）型とホッパー（周遊）型がある。以前は完全に後者であった。「お金持ちなんですね。」と言われるが、奨学金で生きていた身分。日本にいる方が「滞在」費は高い。旅を続けることが大事なので贅沢しない。剃髪したり、1日キャベツ1個の食事だったりする時も。（就職後は出し惜しみから解放。）ヒッチハイクをしながら、出会った人に情報を得ながら、その日の気分で行き先も決まる。欧州は夜行列車睡眠を確保するため毎日、距離のある違う国を訪れる。米国グレイハウンドバスではほぼ一ヶ月30都市寝ながら移動、狭い座席で快適に眠れる術学ぶ。何もかもが新しい発見。車窓から景色を眺めていると、いろんな考えが浮かぶ。有意義な時間だ。人間模様も面白い。詐欺には段々遭わなくなった。それはたくさん詐欺に遭ったおかげ。人間不信にもなった。鍛えられた。日本人、お金はもっている事実。日本人の感覚と感情では乗り越えられない壁もあった。南米では未だに賄賂を要求されることも（アフリカでは渡さないと収監される可能性すらある）。バイクタクシーに置いておいて盗難されたバックパック取り戻すために、日本での常識を捨て、警察を「利用」もした。一方、韓国もそうだが、情に厚い文化、人々にも巡り合う。見ず知らずの旅人を泊めてくれる、お金をくれる、案内してくれる。想像できないような経験。ソウル駅では妻につながる出会いも得た。

所帯をもつと望み通りの「旅」はできなくなる。それでも近いものを追求する。小さい子連れの旅は危険、残らぬ記憶では意味がない、ともいう。そうかもしれない。それでも2度とない子ども時代だからこそ、積極的に連れて行く。記憶が問題ではない。経験は体に染み込む。旅の事実があるからこそ、その後の人生に関係するはず。写真・動画を親子で振り返ることの意味は重い。家族で非日常を経験することの価値は大きい。娘が将来冒険家になったら…という父親の杞憂は置いておいても、旅は子育ての糧となる。

旅で自分が「変わる」のではなく「気づく」のだ。問題はどうか活かすかだ。世界は広すぎて深すぎて、旅をしても井の中の蛙であることには変わらない。無知の知に気づくだけ。だけど、だから楽しいのだ。旅のスタイルは多様化している。書いたのは「私の場合」に過ぎないが、部屋でうずくまっているのなら、外に出て欲しい、という気持ちを込めて…。旅を！